

科目名称：	障害児保育演習 I	
担当者名：	中村 明成、和泉 美智枝、小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
障害児保育の保育現場を訪問し、観察と参加を通して具体的な事例をもとに、日々の保育者の保育展開に接する。種々の障害の中でも、特に広汎性発達障害（LDやADHD、高機能自閉症、アスペルガー障害など）にも注目しながら援助の基本を習得する。今日の保育現場で焦点を当てられているしょうがい注目し、援助の実際を理解する。事例研究をもとに、研究発表につなげる。		
授業の達成目標・到達目標		
現場参加での子どもの理解。保育者の実際の援助方法と、意図の理解。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）
あり	《内容1》（中村）障害者支援施設支援 《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》（和泉）障害児・者支援施設支援員 《経験年数2》 2年
	《内容3》（小西）保育士 《経験年数3》 42年
	《内容4》 《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
しょうがいにかかわる方の講話レポート	内容を理解し、質疑応答も含め、自分の考えを表現できる	内容を理解し、質問ができ、表現できる	内容を理解できる	内容の理解が不十分である
障害のある本人の講話レポート	内容を理解し、質疑応答も含め、自分の考えを表現できる	内容を理解し、質問ができ、表現できる	内容を理解できる	内容の理解が不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーションと学習の進め方	シラバスを読んでおく	30分
第2回 なぜ「障害児保育」を選択し、履修したか(プレゼンテーション)	履修の理由について、自分と他者の違いを理解する	30分
第3回 1年次「特別支援教育の理解」の学習内容のふりかえり	「特別支援教育の理解Ⅰ」の参考図書の読み込み	30分
第4回 「特別支援教育の理解」のまとめの確認と学習の課題設定	「特別支援教育の理解Ⅰ」の参考図書の読み込み	30分
第5回 トータルな発達をふまえたしょうがい全般の理解	トータルな発達をふまえたしょうがい全般の理解についてレポート作成	45分
第6回 障害児保育担当者による講話(保育園・学童保育など)	質問事項などを整理する	30分
第7回 障害児保育担当者による講話についての討議とまとめ(ディスカッション含む)	障害児保育担当者による講話レポート作成	45分
第8回 しょうがい児の家族、家庭の理解	しょうがい児の家族、家庭の理解の文献を調べておく	30分
第9回 しょうがいのある子どもを持つ家族による講話	質問事項などを整理する	30分
第10回 しょうがいのある子どもを持つ家族による講話についての討議とまとめ(ディスカッション含む)	しょうがいのある子どもを持つ家族による講話レポート作成	45分
第11回 相談援助者の実際と、各関係機関との連携の理解	施設実習体験学習のふりかえり	30分
第12回 相談機関の担当者の講話	質問事項などを整理する	30分
第13回 相談機関の担当者の講話についての討議とまとめ(ディスカッション含む)	相談機関の担当者の講話レポート作成	45分
第14回 個々の課題研究	3つの講話を整理統合する	40分
第15回 前期のまとめ(グループワーク)	後期に向けた自分の課題を見つける	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、外部講師の講話についてのレポートを課す。また、ふりかえりや質問事項をまとめておく。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
提出課題(100%)

課題に対するフィードバック

レポートについて添削し、教員が学生と討議し、まとめる。

教科書・参考書

適宜、資料を配布する